令和元年度　「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　日本の土砂災害を知る　」

東京都　学習院女子中等科　２年　渡邊（わたなべ）　唯子（ゆいこ）

良い天気に恵まれて鹿児島湾沿いをレンタカーで走っている間、桜島はやはり迫力あるなあと、のんきに景色を眺めていた私は、ある地域で青々とした山の斜面の一部だけごっそり地肌が露出しているのを見つけてドキリとした。今年の夏は九州を巡ることになっていたので、７月のはじめに鹿児島や熊本で大雨による被害を伝えるニュースがいつも以上に気になっていたのだ。私が目にした山肌は土砂災害跡と思われるが、いつ起きたものかは分からない。それでも自然災害って怖いと強く感じさせられた。私の住んでいる地域で土砂災害が起きたことは無いので、今まではニュースで得た情報しか知らなかった。これは私が初めて見た災害跡だった。災害が起こった時、どれほどひどい状況だったか私には想像もつかない。だからこそ、もし私の住んでいる地域で土砂災害などが起きた時にどこに避難すればいいのか、どのような対策が行われているのか事前に調べておかなければならないことに気づき、これを機に正しい対策の仕方を学びたいと思った。

日本の国土面積に占める森林率は約７割になるのだから、土砂災害は避けられない自然災害の１つである。そこにきて、近年の異常気象が重なったらどうなるのだろうと知識の少ない私でも不安で仕方がなくなった。過去の土砂災害発生件数を見てみると平成 30 年は平成 29 年と比べると２倍以上発生件数が多くなっている。平成 30 年の都道府県別の土砂災害発生順位を見てみると１位広島県 1243 件、２位愛媛県 407 件、３位北海道 233 件、４位山口県 191 件、５位高知県 160 件。このランキングを見ると広島県が２位の愛媛よりも３倍も多いことが分かる。そして広島県に土砂災害が多い理由を調べると、要因は山地の地質にあった。広島花こう岩は、長い間雨や風にさらされると「マサ土」という砂のような土に変化し、水を含むと非常にもろくて崩れやすい性質を持つ。このマサ土が斜面の表面を覆っている山地が多い広島県は土砂災害が多いのである。そして、人口が集中する広島市周辺は、山を切り開き斜面の直下や谷の出口まで住宅が開発されてきた結果、人的被害も多くなってしまったことが分かった。また、過去 10 年のがけ崩れの発生件数は、鹿児島県が圧倒的に多く、やはり地質が大きく関係していた。九州南部に広がるシラスという火山灰の地質は、広島花こう岩と同じく水分を多く含むと一気に強度が下がり、もろくなって崩れる性質を持つ。このように特に被害の多い地域は勿論のこと、森林大国で、かつ火山大国の日本で暮らしているならば一体どうしたらいいのだろうかと、更に調べていくうちに「土砂災害防止法」という法律を初めて知った。この法律は、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害の恐れのある区域について、危険の周知、警戒避難態勢の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進しようするものだそうだ。基礎調査といって土砂災害被害を受ける恐れのある区域の地形、地質、土地利用状況についての日本全国の調査が今年中に完成予定となっている。この調査を基にして国民に情報が提供されている。私は自分の住んでいる地域は、どうなっているのかも調べた。ホームページを見てみると日本では「急傾斜地崩壊危険箇所」「土石流危険渓流」「地すべり危険箇所」の３つを総称して「土砂災害危険箇所」といい、私の住む地域でも、何と 43 ヶ所もあった。まさか身近にこんなに危険箇所があると思っていなかったので驚いた。実際に災害が起きた時に個々ではどうすればいいのかを考えた。まずは自分の家の周りは大丈夫などと思わないで、住んでいる地域が「土砂災害警戒区域」か調べてみること、入っていなかったとしても近くに斜面などがあった場合には普段から気に留めておく。２つ目は、大雨や地震が起きた時は「土砂災害警戒情報」をチェックすること。３つ目は、もし住んでいる地域が土砂災害警戒レベル４になったら全員避難すること。家の地域の避難場所は私が通っていた小学校だったので避難するようなことがあったら私が率先して案内できると思った。

令和元年度　「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

私は、この作文を書くのがきっかけで初めて土砂災害について詳しく調べた。そして、改めて土砂災害の怖さを知った。私達に多くの物を恵んでくれる自然の山々が時に一瞬にして日常を奪ってしまう恐ろしい一面を持つことも。

鹿児島を出て熊本から阿蘇に移動する途中「国道復旧工事中　がんばろう熊本！」という看板を見て、大雨による災害ではないけれども、自然災害から数年経ってもまだ復旧が終わらない被害の大きさ、それでも復旧に向けて頑張っているエネルギーを感じた。自然災害は、本当に本当に怖い。でも、ただ怖がるだけではなく、普段から積極的に知識や情報を得ることで災害を最小限に抑える努力をして、万が一、災害にあっても負けないで粘り強く復旧していく強さを持てたらと思う。